

研修報告書 No.25

所 属：大阪医科大学附属病院

氏 名：研修医 堀 はるか

研修先：医療法人白井会田野病院、馬路村立馬路診療所

約1ヶ月間、田野病院を中心に高知県東部で地域医療研修をさせていただきました。一次予防から急性期、そして退院後の介護福祉サービスまで万遍なく学べるスケジュールは、研修前後で全然知識量が違うほど毎日大変充実しており、また様々な職員の方に高知県の話を伺ったり一緒に飲みに行ったりと研修外の生活も毎日楽しく、帰りの電車では帰るのが寂しくて目に涙を溜めていました。後輩にもぜひ安芸グループ研修を薦めたく、研修内容を報告させていただきます。

私は神経内科を志しており、科の特性上、要介護認定を受けている患者さんも多く、在宅医療や介護施設と連携して治療を行う機会も多くあります。ところが実際に患者さんが退院後どのような生活を送っているのか、いくら施設やサービスを調べてもイメージができないのですっかり理解できずにいました。そのため、今回急性期から慢性期まで万遍なく研修させていただいた中で最も印象に残っているのは、ケアマネ・訪問診療・訪問看護・訪問リハ同行や、通所リハ・デイサービス研修、さらには「サ高住」・老健といった施設研修など、介護保険サービスに関わる分野の研修です。様々な角度から医療・介護の現場や患者さんの生活を垣間見ることで、地域医療の問題点を実体験として考えることができました。

中でも印象に残っているのは、昔ながらの家屋やへき地ならではの立地です。畳や布団の生活なのはもちろん、各部屋の間が土間で繋がっていたり、トイレが外にあったり、山道に建っている家は一步外に出ると急な坂道だったり、足腰の弱った方が生活するには難しい家が多くありました。また、へき地では車の運転が難しければ買い物や病院にも行けなくなるので、体調が悪いほど受診をためらってしまったり、少なくない地域で救急車を要請しても搬送に1時間以上を要するとのことでした。ただ高知の医療機関はこの地域性に特化しており、一般診療所が入院病床を備えていたり、訪問診療で対応していたり、段差の多い家屋での生活を想定したリハビリを行ったりしていました。今回の研修では患者さんとじっくりお話する機会が多く、日々のちょっとした不便や心配事や、逆に日々のちょっとした幸せや家族の温かさを聞くことができ、医療知識や技術以外の根本の部分でも毎日多くの学びがありました。

1か月間という短い期間でしたが、毎日が大変充実しており、大学ではできないような経験をたくさんさせていただきました。研修外でも、提携施設の温泉に連日通ったり、温泉帰りに満点の星空を見たり、1人でくてく室戸岬を歩いたり、職場の方と飲みに行ったり、まさに「地域」を舞台にした研修をさせていただき、とても楽しく充実した1か月でした。研

修を終えて自分の中で最も変化したのは、患者さんとの接し方です。言葉で説明するのが難しいのですが、初対面でも壁を感じさせない親近感と包容力は高知の人柄なのでしょう。定期薬だけの外来でさえ、こんなにも心温まる外来があるだろうかというくらい、どんなに忙しくても忙しさひとつ顔に出さず1人1人丁寧に笑顔で迎え、患者さんに触れ、聴診し、また笑顔で別れていました。私もその笑顔と包容力のお蔭ですぐ高知に馴染め大変嬉しかったので、大阪に帰っても患者さんの緊張感を和らげるような柔らかい医師になりたいです。そして機会があればまた何らかの形で高知の医療に携われたらと思います。